化学産業を巡る環境変化

○技術力は日本が上回っており、いわゆる機能性化学品について高いシェア、競争力を維持してきた。
○しかし、海外の追い上げも激しく、研究開発を加速することが必要。

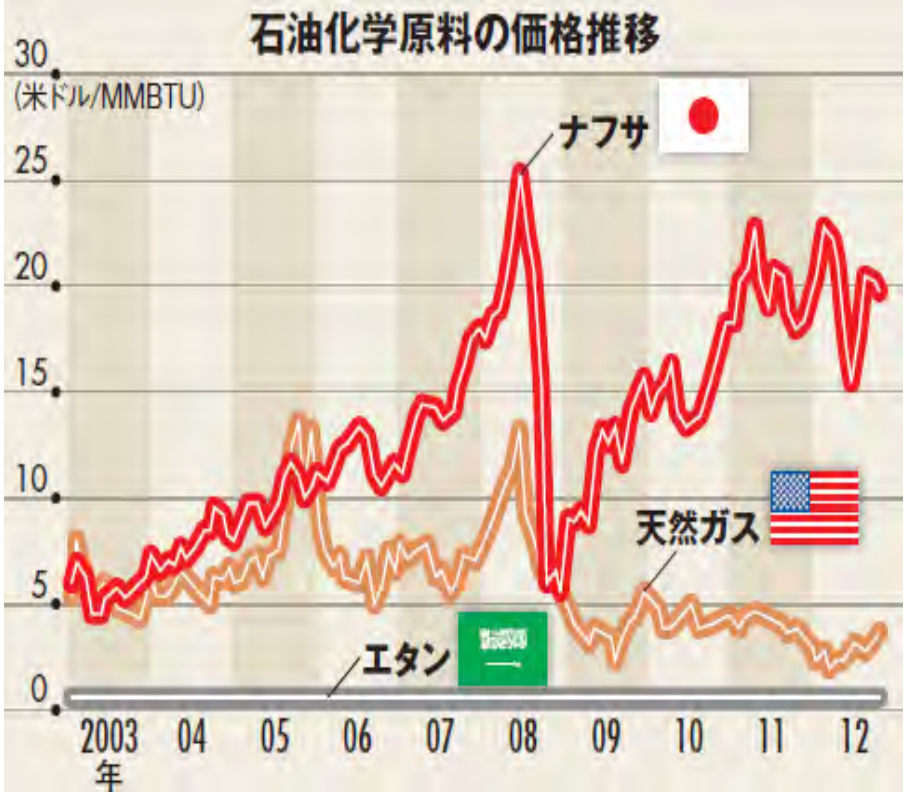
リチウム電池分野

	２００６年		２０１１年	
正極材料	日亜化学工業、Umicore（ﾍﾞﾙｷﾞｰ）、セイミケミカル、正同化学工業、松下電池工業、日本化学工業、田中化学工業、本荘ケミカル　等	900億円 シェア77%	日亜化学工業、Umicore（ﾍﾞﾙｷﾞｰ）、L&F新素材(韓)、LGChemical(韓)、AGCセイミケミカル 等	1154億円 シェア39%
負極材料	日立化成工業、ＪＦＥケミカル、日本カーボン、大阪ガスケミカル、三菱化学　等	148億円 シェア96%	日立化成、ＪＦＥケミカル、三菱化学　等	408億円 シェア63%
電解液	宇部興産、Samsung Cheil（韓）、三菱化学、富山薬品、三井化学 等	303億円 シェア77%	宇部興産、Panax E-tec（韓）、三菱化学、富山薬品工業　等	390億円 シェア72%
セパレータ	旭化成ケミカルズ、東燃化学那須、Celgard（米）	409億円 シェア77%	旭化成イーマテリアルズ、東レバッテリーセパレータフィルム、Celgard（米）、宇部興産 等	660億円 シェア61%

［出典］（株）富士キメラ「2007有望電子部品材料調査総覧」など
（注）日系企業シェアの計算では、推計を含む

石油化学産業をめぐる環境変化

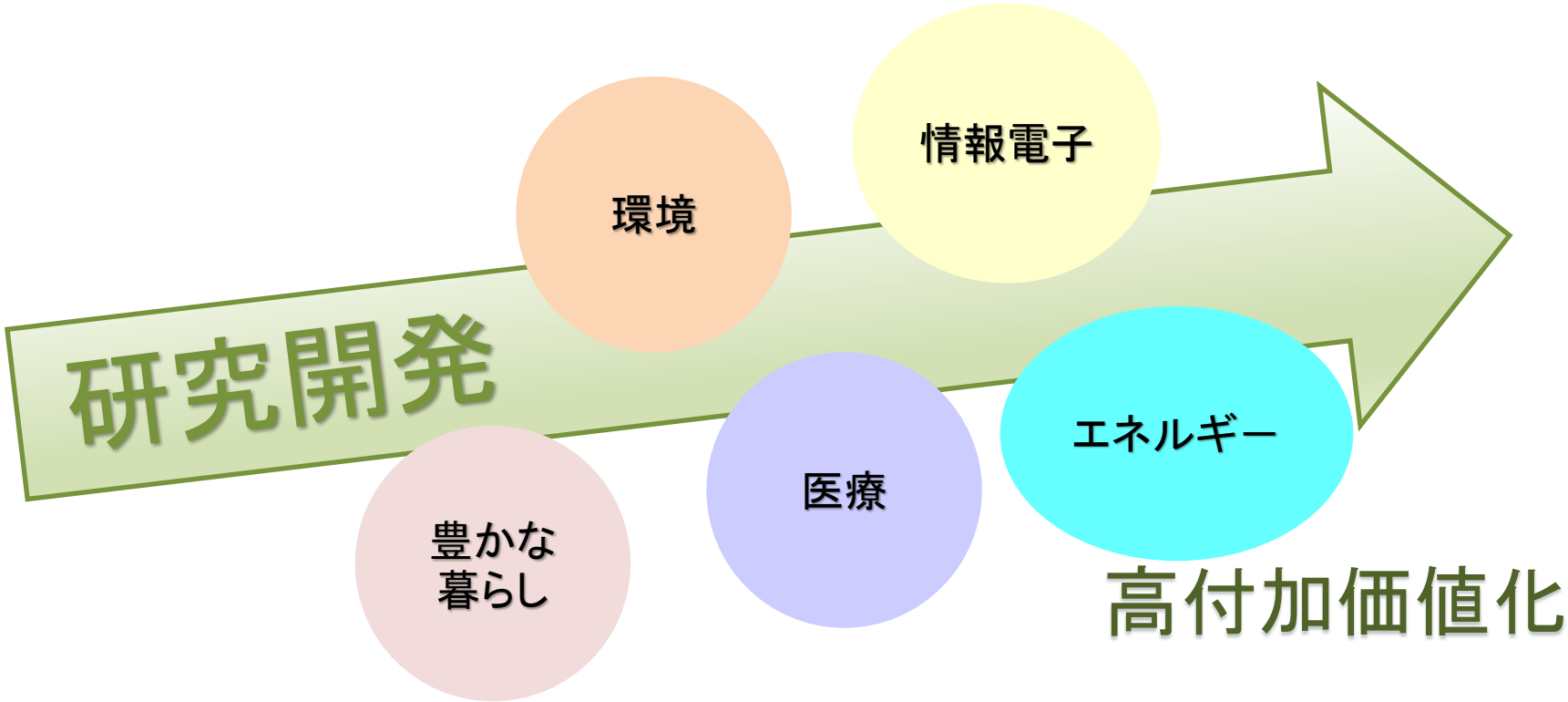
○原料については、日本はナフサベース。一方中東や米国では、安価なエタンなどの石油随伴のガスを原料にしており、コスト競争力を有する。
○米国は、シェールガスにより石油化学産業が拡大見込み。



（出所：みずほコーポレート銀行産業調査部）

北米産シェールガスを活用したエチレンプラントの新設

会社	規模	場所	稼働時期
エクソンモービル	150万トン	テキサス	2016年
フォルモサ	80万トン	テキサス	2016年
ダウ	150万トン	テキサス	2016年
オキシデンタル	54万トン	テキサス	2016年
シェブロン	150万トン	テキサス	2017年
サビック	150万トン	USA	2018年
シェル	150万トン	ペンシルバニア	2020年
サソール	150万トン	ルイジアナ	2020年

日本の石油化学産業の課題

○日本の石油化学産業の生き残りのために、成長する市場に対応した高機能新素材の開発が必要である。
○特に海外勢の追い上げが激しく研究開発のスピードが必要である。